

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1270801010		
法人名	株式会社ゼクスコミュニティ		
事業所名	ボンセジュールフェリエ南行徳		
所在地	千葉県市川市福栄3-15-15 (電話)047-701-3006		
評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成20年3月3日	評価確定日	平成20年4月3日

【情報提供票より】(平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 12月 1日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 26人
職員数	28人 常勤28人, 非常勤0人, 常勤換算14.6

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4階建ての 2~4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000円	その他の経費(月額)	37,900円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有)(132,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	25名	男性	4名	女性	21名
要介護1		4	要介護2		3
要介護3		11	要介護4		7
要介護5		0	要支援2		0
年齢	平均 87.8歳	最低	76歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 和啓会 メディクス本郷クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は、南行徳駅に近い、閑静な住宅地に立地する社員寮造りの明るい建物である。各階を単位に3ユニット運営されている。利用者の平均年齢は87歳で今年100歳になる人がいる。施設の4つの理念実現に向け、今年度は、[ゆっくり生きよう]を目標に掲げサービスの提供に取り組んでいる。職員はその方に合った生活を過ごすために合い言葉に、入居者のことを優先して考え、明るく、やさしく、元気な態度で支援している。これは、資格制度を重んじ、能力の向上のための研修のしくみが生かされた結果である。職員は研修に積極的に参加しており、施設も手厚く援助している。管理者、職員は、地域交流を活発にするなど、更に良いサービス実現に努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の指摘を受けて1)勤務時間帯の見直し2)浴室、トイレのスロープと手すりの改修、3)入浴の夜間利用対応4)金銭管理方法の見直し5)職員の休憩室の設置など、全て改善を実施している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員が全員加わりまとめられている。この評価をきっかけに今後の取り組むべき課題として、1)地域との交流を増やす(5回)2)利用者のカンファレンスに全員参加する3)重度化等の対応方法について4)緊急時の受入れ病院を更に確保する。などがあがり、サービス向上に意欲的であることが伺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3~4ヶ月に1回開かれている。出席は利用者、家族、自治町会長、市役所、施設の代表が参加している。主な内容は、1)外部評価の結果や改善計画を説明して、意見を交換したうえで、5項目の改善を実施したこと。2)地域との交流について、常に討議を重ね、町会行事等に利用者が積極的に参加する手だてが出来、多くの利用者が楽しんだことなど、会議の成果がサービスの向上に繋がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者の苦情対応については、重要事項説明書に窓口を明らかにするとともに、法人本部が利用者へ直接アンケート調査を行い意見を求めるしくみがある。このシステムによる具体的な苦情はないが、これは家族に毎月近況報告を行っていることと、家族の訪問時には必ず話し合いをして、きめ細かに意見、要望を聞いて、これらに応えサービス向上に向け改善を行なっている結果とみられる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域交流は、拡大を目標に取り組みをしたことにより、自治町会役員の積極的な活動への協力が得られて交流が活発になっている。利用者は近くの小学校の卒業祝い、運動会、自治会の盆踊り大会、敬老会、餅つき大会などへ参加している。小学生との手紙から始まった小学生による落語や映画会、手品などボランティアによる地域との繋がりが強まった。近隣の方とは散歩の折の声かけ等により親しんでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は法人共通の3点「1) 尊厳を守る 2) 自立性を高める3) 個人のリズムに合ったケア」に事業所独自に、4) つ目、「地域の中でその方らしい生活が出来るようにお手伝いをする」を加えている。自分の親が入りたい施設づくりを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向け、室内に理念を掲示するとともに、職員はカンファレンスの折に確認しあっている。そして、理念を受けて、利用者の家庭生活の延長として、一人ひとりのペースを守るため生活面で押し付けをしないよう配慮するなど具現化している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は、自治町会の責任者等の積極的な協力もあり交流が活発になっている。近くの小学校の運動会、自治町会の餅つき大会、七夕祭りなどに参加した。小学生と手紙のやり取りで始まった小学生による落語会や映画会、手品などボランティアによる交流で地域との繋がりが強くなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、各ユニット毎に行われている。ユニットの責任者を中心に職員の意見を聞き、吸収して評価している。評価の結果を踏まえ、地域交流は5回の行事が計画されたり、勤務時間の見直しなど、自己評価、外部評価をサービスの提供に生かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は3～4ヶ月に1回開かれている。外部評価の結果や施設現状の説明をしたり地域行事への参加について話し合いなどを行っている。行事は今年は昨年より増えて、敬老会や小学校との交流など5回の行事への参加が計画されている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>支所に地域包括支援センターがあり毎月打合せをしている。市とは現況の報告を行うと共に意見や指導を受け、介護保険の費用の適切な使い方等について話し合っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族会の他家族への近況報告書は個人別に行事の内容と生活の様子を載せて毎月送付している。家族は多い人で週2回から2ヶ月に1度面会に来るが、カンファレンスの話を必ずして病気の場合は看護師が説明する。預かり金の収支報告は分かり易く改善された。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者アンケートは別に法人から直接行っているが、クレームの具体例はない。運営推進会議で利用者の意見を取るよう話があり、外出の希望をとり花見にマンツーマンで出かけるなど反映されている。家族からも外出の要望が見られる。</p>	○	<p>施設では日常的に、家族の希望を聞きながら屋内では絵画、陶芸、カラオケなどのレクリエーションと、天気の際は散歩をしている。今後ともあらゆる機会を捉えて家族等から多くの意見を聞きその内容を運営に反映して欲しい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員をユニットごとに固定化とスキルアップにより定着を図っている。介護レベルを上げる取組みをして、介護技術など必修4項目全体で17項目の研修がある。又実践研修に7名受講しているが、費用は全て施設が負担している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格制度がしくみになっている。介護福祉士、介護支援専門員や計画作成責任者7名の資格取得実績があり報奨金をだしている。能力評価制度により年2回評価を行い給与に影響するが、努力すれば上がるしくみである。職員からもシフトが可能なら研修に参加する意欲があった。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホームとの交流はないが、法人の中で同じ施設、及び特定施設が数多く運営されていることから、本社内の委員会が主催する研修会に参加している。</p>	○	<p>職員が外部研修の中で、多くの仲間と交流できたことで、技術の向上に自身を得たと話している。今後も研修や、他の施設との相互交流などを通して更に充実されるよう期待する。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所の際は見学してもらい話し合いで決定するが、誰でも帰宅願望は当たり前と家族に伝えながら馴染みの工夫をしている。たとえば、職員が情報を共有するためにケア記録は、時間単位で行うこととし、これを家族に細かに伝えたり、個室には希望の家具を持ち込み配置することなどである。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>テイクタイムや居室でのくつろぎの時間などに、職員が利用者と一緒に過ごすことを大切にしており、昔の話や各人の得意とする事柄などを話題とし充実した時間を過ごすようにしている。殊に、話し合いにおいては、利用者の笑顔を引き出す努力をすることとしているが、これはすばらしい。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活における言葉や表情から、あるいは話し合いの中で、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。入浴時などは良い機会になっている。また、家族等からも多くのことを聞いているが、サービス提供上大切なことに付いては記録されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の個々の状態を良く捉え、希望や要望を配慮した計画が作成されている。計画書は、入所時に、計画作成担当者が中心になって看護職員や介護職員等と話し合い、目標やサービス内容など項目ごとに具体的に策定している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状況を捉えるためにカンファレンスは月1回行っており、3月あるいは6月毎に計画の見直しを行っている。また、体調など状況が変化しているものに付いては積極的に医師に意見を求めサービス内容の変更を行っている例も確認された。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>協力病院を核にした医療の連携を重視しており、殊に健康管理上必要な場合には近隣の病院への通院や送迎などこまめに機能を生かしながら必要な支援を行っている</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者は週一回都内の協力病院の医師の診察を受けている。従来から診察を受けている医師の診察を希望するものや近隣病院で治療を受けた方が良いものに付いては、適宜診療情報提供票や紹介状により情報を交換しながら適切に対処している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居後の重度化に伴う対応に付いては、入居時に家族の意向を確認すると共に、状況の変化が出たケースには、家族、医師、看護師を交えて話し合い適切な処置を見出している。ターミナルケアについては、法人としては看取りの方針を持っているが、医療体制など課題があるので検討中である。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについては、常に状況を確認しながら留意している。殊に排泄、入浴に当たって、羞恥心に配慮した誘導や介助を心がけている。個人情報保護の観点から写真撮影を断わる者について、本人の意思を尊重するなどの対応が見られた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者が、基本的な生活のリズムを保たれるように配慮しながら、個々の希望や好みに合わせて1日の過ごし方をもち、居室でゆっくりくつろいだり、カラオケ、絵画、家庭菜園などに打ち込むなど本人の気持ちを尊重した暮らしを支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に食事をしている。一人ひとりの健康状態に合わせて、常食に加え、流動食などを調理している。利用者には、下ごしらえ、盛り付け、後かたづけなどを一緒にすることにより食事が楽しみになるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	従来は、入浴時間などかなり制約したものになっていたが、今は、入浴したい日に入浴でき、時間や順番も本人の希望を尊重している。夜間に入浴する者もあり、利用者にとって楽しく過ごす機会になっている。個別ケア推進の観点からも好ましいことである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付け、片づけ、洗濯物のたたみ、お花の手入れなど一人ひとりにあった活躍の場を提供し、自信を持ってもらうことにより、張り合いのある暮らしを支援している。地域の行事への参加も楽しみの機会にするよう働き掛けている。	○	その方らしい暮らしの支援は、方針に掲げ実践しており、一定の成果を収めている。この分野は、まだ取り入れる要素があると思うので、引き続き一人ひとりに合った役割や楽しみごとを増やし、充実した生活が過ごせるよう一層の努力を期待する。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は一人では出来ない為必ず職員が付き添っている。天気の良いときの散歩、スーパーの買い物、美容院に行くなど出かけている。屋内では歩行可能でも、外出は車椅子になる者もあり職員は健康に気をつけて必ず1対1で同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設には一般の方がインターホンを利用して自由に入出入りしている。外出することは可能な状態にしている、利用者、家族には鍵を渡していつでも出入りは自由であり、家族にも了解を得ている。居室は鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>施設は鉄筋の耐震構造で、スプリンクラーが備え付けられている。避難訓練は地元消防署と連携して実施している。併設のディサービスと合同で年2回行われ、ご家族、地元自治町会役員も参加して2時間以上に及ぶ訓練を行っている。</p>	○	<p>避難訓練の実施は、地元自治町会にも参加をしてもらい行なわれている。施設としては更に地域の住民の方の協力を得て訓練を行ないたいと考えている。今後更に地域との連携が深まる事を期待する。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>昼食、夕食の献立表を見ると栄養のバランス、加齢数、多様な食材使用等が配慮されたものになっている。摂取量、水分の補給量は、必ず記録している。又、一人ひとりの状況を見て、キザミ食、ミキサー食、おかゆにするなど木目細かに対応している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングなど皆が使う部屋は、居住性を考えソファなどの家具を配置し、壁の飾りなどにも工夫が見られる。なお、床の掃除も行き届いて、全体に、明るい感じをかし出ししている。また、季節の花を飾り、心地よい音楽、適切な照明など細かいところにも配慮されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、各部屋ごとに、本人と家族の要望などを聞き、相談のうえ、家庭で使い慣れたタンスなどの家具類をお持ち込み、配置を行い、また、自由に装飾品などを飾り、心地よく過ごせるよう支援している。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。